

## 総会議事録

### 1 開催日時

平成19年5月26日(土) 13:30から15:00まで

### 2 開催場所

山形市役所大会議室

### 3 出席者数

18団体, 26事業者, 89名: 総数133(定足数89)

### 4 審議事項(議案)

第1号議案 平成18年度事業報告及び収支決算報告について

第2号議案 平成19年度事業計画(案)及び収支予算(案)について

### 5 議事の経過及び結果

議長については, 規約第11条第2項の規定により菅野会長を選出した  
質疑応答が行われ, すべての議案が承認された

### 6 質疑応答は以下のとおり

第1号議案 平成18年度事業報告及び収支決算報告について

(質問:A) ホームページのアクセス数と, 情報の内容は?

(事務局) 3月15日にホームページを開設し, 5月25日までのアクセス数は, 323件であった。主な内容は, 事業活動内容・会員募集, 行政のごみに関するホームページとのリンクである。

承認

第2号議案 平成19年度事業計画(案)及び収支予算(案)について

(意見:B) 買い物袋持参運動は, なかなか定着しない。店舗が一斉にレジ袋の配布をやめなければ, 定着しないと思う。ドイツのデュッセルドルフに行ってきたが, 現地では布の袋で買い物していた。レジ袋は渡していなかった。

(質問:C) 買い物袋持参運動の店頭キャンペーン・街頭キャンペーン, 買い物袋コンテストはいつ行う予定か。

(事務局) 上期(9月)までには店頭キャンペーン, 街頭キャンペーンを実施したいと考えている。運動であるので, 年1回ではなく, 計画的に実施していきたいと考えている。

(質問:C) 街頭キャンペーンは, どのような規模を想定しているのか。

(事務局) 一人でも多くの方に運動を伝えたいので, 中心部や駅前も考えられるが, 山形市には約30の地区商店街があるため商店街でのキャンペーンも想定される。なお, 現段階では, 場所は確定していない。

(質問:C) 仙台で『ソールメイト』というバンドがエコバッグの歌をCDを出して, 唄って流行っている。是非呼んでいただきたい。若い人にも

PRできると思うので、検討いただきたい。

(事務局) ご意見として、頂戴する。

(質問：D) 基本的な質問であるが、規約にも載っていないが、事務所の所在はどこにあるか。事務費は具体的にどういうものを指しているか。事業計画の中で、誰がやるからこのお金が必要なのかが見えない。会議費は必要か。本日の総会を市役所内で開催するにあたり、費用が発生しているのか。役員会も市役所のどこかの部屋を借りればすむことではないか。長い目で見た時に、この会の経費は、市の補助金とその他収入をもって充てると規約にあるが、その他収入の割合が非常に少ない。市の補助金が未来永劫続くものなのか分からないので、会員の中で少しお金を出しあうというのが必要ではないかと考える。

(事務局) 事務局の場所につきましては、規約第18条により、山形市ごみ減量推進課内である。会議費について、部屋代等は発生していない。会議費は市役所内の会議室を借りる形で、会場借り上げ代はかからないが、総会及び役員会の資料の印刷費・紙代に要する経費である。事務費については、当会は外郭団体であるので、鉛筆や消しゴム、封筒など事務に係る消耗品等に要する経費である。市の事業とは違うので、この金額が必要になってくる。

収入の部であるが、市の補助金については、いつまでも続くということとは、想定できない。その他の収入については、会費や協賛金などを今後の活動の中で、期待しているところである。会員にとって、活動を魅力的にして、メリットが得られるものを作り上げていけば、必然的にその他の収入も増えてくるのかと考えている。

(意見：D) 山形市役所の職員が、この会のために動く時間帯と、通常の業務で動く時間帯とがあると思うが、本人は非常に悩むと思う。その線引きは非常に難しいが、本来のあるべき姿としては、どこかの場所を借りて、市民団体等が運営する方がいいと思う。山形市としては、なかなかそれが出来ないから今の状態なのかもしれない。育てていくということかも知れないが、予算案を見る限り、『もったいない』という意識が感じられない。

(質問：E) 買い物袋持参運動について、これまでも『ゴーゴーマイバッグデー』といったキャンペーンが行われていたと思うが、その運動と何が違うのか。どこを改善して、今度どういったことを具体的に行っていくのか。ごみ減量学習会について、会員のみを対象になるのか、企業向けなのか。今後会員になることで、魅力的な学習できる場を作

っていくということであったが、ごみ減量学習会以外に今後どういったものをインセンティブにつけていくのか。

（事務局） 買い物袋持参運動については、以前から市消費者連合会さんからご協力をいただき、いろいろな運動を行ってきたが、今回は『ごみ減量・もったいないねット山形』として会員の方と行うことで、運動の広がりが出ることを期待している。

ごみ減量学習会については、会員に情報を流すとともに、さらにホームページ等でも発信し、事業を通して、それをきっかけに会員になっていただきたい。会員以外の方も対象として考えている。インセンティブについてであるが、会の活動に直接参加することと考える。会に入り、ごみ減量を行っていることの意識づけが、会員の中では大切なのではないか。事業者間については、事業所でこのようなごみ減量を行っているということを共有し、広めていくことで、会員の魅力が発信できると思っている。

承認

## 7 情報交換

（事例：佐久間さん） 畑を借りて生ごみを利用している。市の補助を受けた電気式生ごみ処理機を使っている。当初使い方が難しかったが慣れてきた。長時間入れた状況では、乾燥しすぎて発酵がスムーズにいかない。畑の雑草に米ぬかや鶏糞を混ぜて緑肥を作っている。ケヤキの落ち葉を集めてきて、腐葉土にし混ぜたり、補強剤として使うと比較的使いやすい。

（事例：山形市食生活改善推進協議会） 調理をするときの心がけとして、食材の食べられるところは、捨てないで使いきる。たとえば、だし汁を作る場合、化学調味料は使わずに、だし昆布や花カツオでだしをとる。だしをとった後も栄養素や旨みが残っているので、細かく切り、佃煮のように味付けをして、仕上げに煎りゴマを加えると、ふりかけのような美味しいものが出来る。煮干の場合、味噌汁の具と一緒に召し上がっていただくと、カルシウムの摂取にもつながる。野菜では、大根の葉をさっと茹で、刻んで、少量の油で炒めてから、ジャコや花カツオを加えて味付けをすると温かいご飯にぴったりの一品が出来る。今、市販されている人参は、皮をむかなくても食べられる。大根の皮やキャベツの芯もきんぴらなどにすれば、生ごみの減量になるかと思う。

（事例：五十さん） 山形は自然に恵まれたすばらしい土地であり、『山形』のかたちをみると、山は自然の宝庫、形という字は、左に鳥居がある。鳥

居があるということは、神様の県である。右の一二三というのは、清らかな水が流れていると、まさに山形は自然の宝庫であると思っている。2ヶ月に一度、市報に玄米菜食の講座を掲載させてもらっている。無農薬・有機栽培で皮ごと食べることが、どれだけ生ごみを減らせるかという実体験を通して、地道にボランティア活動で伝えている。日本人にあった伝統的な食事をすると、子供もきれなくなる。よく噛んで食べ、ごみを減量しながら、子供もきれなくなり、さらに頭が良くなるということは、素晴らしいことではないかと思う。十分食べても残った生ごみは、電気式生ごみ処理機で処理し、堆肥として畑で使っている。畑を持っていない人でも、家庭菜園でお試しいただくのも良いかと思うし、ちょっとの時間でも、出来るものを大いに取り入れてもらえればと思う。これからも地道な活動を続けていこうと思う。

（事例：後藤さん） 雑紙の分類をしてからは、ごみが半分くらいに減った。「もやせば、ただのごみ。分類すれば、資源になる。」ということを感じている。家族に高齢者がいるので、健康食品を毎日とっている。そのパッケージが沢山出る。チリも積もれば山となるとは、その通りで、試しに3ヵ月ためてみたところ、非常に多くてビックリした。市長のあいさつで、山形市は、東北6県で、古紙回収量1位ということでしたが、私も微力ながら協力しているんだなと嬉しい気持ちになった。街でも再生紙利用のパンフレットを見ると、嬉しくなる。身近なところから出来ることを取り組んでいる。

（事例：佐藤さん） 10年以上前から食品トレーをスーパーの回収ボックスに持っていつている。子供が進学で家から離れ、家族が減ったのに、ごみの量が減らないと気づいたのがきっかけ。スーパーでの買い物が多く、トレーの量も多くなった。もともと生ごみは、畑に穴を掘って埋めていたし、紙は薪風呂だったので、炊きつけに使っていたので、ごみの量は少なかった。食品トレーは回収ボックスへということだったが、当初は興味がなかった。経済的にも、ごみ袋がもったいないという気持ちがあった。茶碗を洗った後、洗って乾かし、スーパーへ持っていく。ちょっとの手間で、ごみ袋の使用が随分減った。肉や惣菜のトレーを一週間もためると、スーパーの袋が一杯になる。かなりごみ袋の減量になっている。プラスチックごみの時にトレーが出ているのが、気になっている。

（事例：渡辺さん） スーパーからもらったレジ袋を三角に折って、布袋に入れ車につけている。袋を忘れた時には、ダンボールに入れてくる。ポラ

ンティアをしているので、その空箱は、古紙として集めている。お店で大根が半分で売られているものに、ラップがしてあることは、無駄だと感じる。ヤマザワで空カン 10 個で 5 円というのをしていた。さくらんぼマジック会というボランティアをしているが、ボランティアなのでお弁当代や交通費は出ない。古紙を集めたお金で、ボランティアの方のお弁当代を出すことが出来た。今後は、その 5 円もためていこうと思う。

（事例：山形市消費者連合会） 皆さんのお知恵を聞いていて、会として、昔からやってきたが、広がらなかったという部分もあった。『ゴーゴーマイバッグデー』の話が出たが、不特定多数の人への働きかけであった。『もったいないねット』というのは、みんなが一緒になってやっていこうというもの。買い物袋持参運動は、物を大切にすることということで、昔から行っていた。行政によりレジ袋の有料化を各店舗一斉に取り組む指導は、公正取引委員会で独禁法に抵触する恐れがある。買い物袋を持って行けないという時があるが、マイバッグは、大きなものでなくても大丈夫。布で自分で作ったものをカバンに入れておけば、どんなところに行った時でも使える。これは、是非皆さんにも取り組んでいただきたい。トレーも、一旦破砕して再生される。きれいに洗うことは、再生するときの手助けになる。情報提供をしていく際に、レジ袋の枚数を出すケースがあるが、あまりピンとこない。牛乳瓶一本の原油でレジ袋が 10 枚できるなど、身近なものでの情報提供の仕方が大事ではないか。雑紙は、物で書いたものを見るのではなく、現物を見ながら実践をしていくことが大事である。

（事例：北部生活学校） マイバッグについて、全国の生活学校連絡会でレジ袋有料化に向け活動している。イギリスで有料化をした際に、いくら高くしてもレジ袋を買い求める現象が非常に多かったという。ごみ減量のためには、有料化より意識の徹底が大事である。意識の啓発のために今年度は 7 月から 12 月まで全国で 3 千万枚のレジ袋を減らすことに取り組むので、ご協力をお願いしたい。

（事例：中合十字屋） 当社では、買い物袋持参運動に役立つことが出来ればと思い、店内放送や店内にポスターを貼り、買い物袋持参運動を呼びかけている。現在は、十字屋オリジナルエコバッグスタンプキャンペーンを実施中。525 円購入された方に 1 日 1 回スタンプを押している。十字屋オリジナルバッグをお持ちの方には、スタンプ 10 個で生活雑貨を、スタンプ 40 個でお買い物券 500 円をプレゼント。

オリジナルバッグ以外の買い物袋を持参された方には、申し訳ないが、スタンプ20個で生活雑貨を、スタンプ60個でお買い物券のプレゼントをしている。私どものネームプレートについているが、『for the guest』が企業理念であるが、最終的にはお客様のためということである。何をお客様が望まれているかということが私どもの行動基準や価値基準となる。レジ袋有料化の話も出たが、中合6店舗のグループでは、まだ方向性も決まっていない。実際にお使いになる方がどんな風に望まれているかということが、最後の私どもの判断になろうかと思う。この会に参加させてもらいながら、実際に皆様方がどんな風に望まれているか勉強しながら行動していきたいと思っている。